

第4回 和束町第5次総合計画審議会

議事録

日時：令和3年6月30日（水）15時00分～17時00分

場所：和束町社会福祉センター 大ホール

出席者（18名）

出席委員：藤井委員、濟藤委員、荒木委員、村田委員、中川委員、井上委員（代理：坊氏）、姫野委員、西田委員、奥委員、大西（研）委員、吉田委員、村城委員、岡田（文）委員、盛上委員、湊委員、澤委員

欠席委員：岡田（周）委員、大西（隆）委員、西村委員

事務局：岡田課長、宮木担当課長、中尾課長補佐、（株）ぎょうせい3名

【配布資料】

資料1：和束町第5次総合計画審議会委員名簿

資料2：第3回審議会（3月25日開催）議事要旨

資料3：和束町第5次総合計画及び第2期和束町地方創生戦略策定スケジュール

資料4：和束町第5次総合計画基本構想（案）

資料5：和束町第5次総合計画基本計画（案）

資料6：第2期和束町地方創生総合戦略（案）

資料7：和束町第5次総合計画審議会委員の意見への対応について

次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

<協議事項>

- ・和束町第5次総合計画「基本計画案」について

資料4基本構想（案）（変更点）、資料5基本計画（案）及び資料6総合戦略（案）について、事務局より説明。

会 長：3つの資料について説明いただいた。総合戦略は、基本計画の重点

事業として、別会議で議論されている内容であるが、今回合冊で策定することで、説明いただいた。本日のメインは、基本計画であるが、今の説明についてご意見あるか。

委員：意見なし。

- ・基本施策分野別の意見交流について
 - 医療福祉部会（医療・福祉・子育て）
 - 教育文化部会（文化・芸術・教育）
 - 産業観光部会（農林・商工・観光）
 - 建設環境部会（道路交通・環境・防災・移住）
- ※各部会発表内容については、別紙参照。

- ・次回の審議会開催日程について

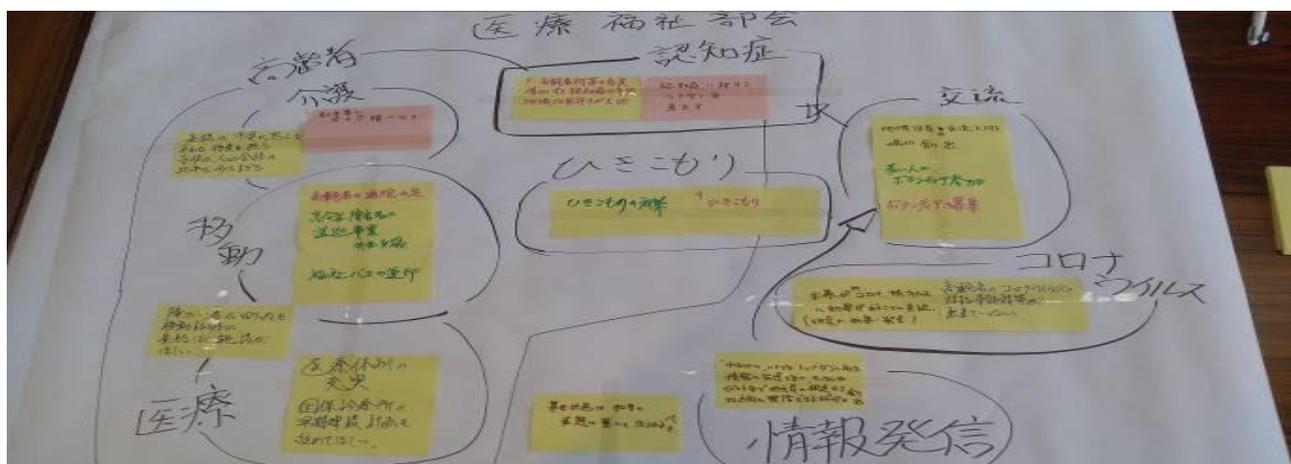
事務局：次回の会議開催は8月4日（水）、最終会議は8月24（火）を予定している。開催時間は両日とも本日と同じく15時となる見込み。

4 閉会

分科会発表内容

【医療・福祉部会】

- 認知症の予防や見守り体制の充実が必要。
- 認知症の方との付き合い方に理解を深めるため、サポーターの充実などの施策が必要。
- 認知症の見守りなどにもっとボランティアの参加が必要である。若いボランティアと交流することで認知症の予防にもつながる。
- ボランティアの募集や参加を呼び掛けるためには、町からだけではなく、関係団体やSNS等の様々なネットワークを駆使した情報発信が必要である。
- コロナウイルスに関して、特に高齢者の予防対策が出来ていないことがある。マスクをしていないなどの現状がある。また、お茶が抗ウイルスに効果があることを実証して、それを発表することで、新たな産業に繋げてはどうかとの意見もあった。
- 福祉の大部分である高齢者問題では、介護に関して、老老介護や少子高齢化による人口減少に伴い将来への不安がある。
- ひきこもりについては、高齢者だけではなく、若年者も含めて把握や対策が必要である。
- 移動に関して、高齢者の通院の足の確保が必要と感じている。例えば、福祉バスの運行、デマンドタクシーなどの運用を充実させてほしい。
- 障がい者の移動に関しても、移動が大変なので、集約した施設があると良い
- 医療に関しては、総合保健福祉施設の早期整備と医療体制の充実を求める声がある。
- 最後に基本計画は和東町の実態に基づいて作られるべきであり、町の中の課題は、町の中に解決策があるはずではないか。



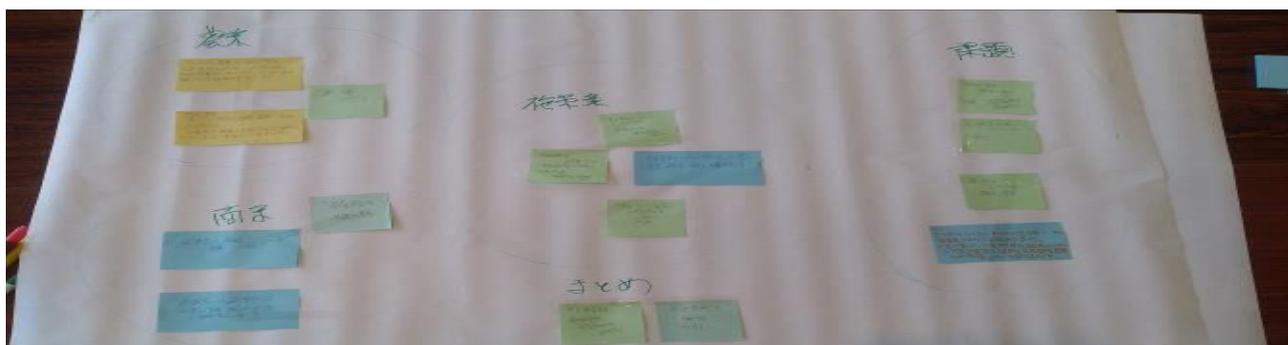
【教育・文化部会】

- 学校教育では、目標を持って楽しく学ぶことが大事である。
- 子どもたちの身の回りの事から考えていく教育が大切である。
- 教育は保育園の時から始まっており、幼・小が連携した取り組みが必要。
- ICT教育を町でも既に取り組んでいるが、より効果的に活用するためにはサポート体制が特に重要。ICT教育は小さな学校だからこそ大事であり、小さな学校や町からも世界に発信できるツールでもある。
- 学校と地域との繋がりの方では、学校の様々な取組を地域の方々に十分周知していくことが大切である。委員会のような組織はできてはいるが、発信力は必ずしも十分ではない。
- 学童と児童館との連携についても必ずしも十分ではない。
- 学校の空き教室が出現しており、有効な活用手段を検討すべきである。
- この様な取組の延長線上に、小中一貫教育という方向性があるのではないかと。まずは具体的な行事から取組んでいくことも方策としてあるのではないかと。
- 文化面では、和東はお茶の文化が基本ではあるが、その他にも多様な文化があるので、子どもの頃から和東の歴史・文化について広く学ばせることが必要である。
- 和東には、様々なサークルがあり色々な事に取り組んでいるが、その事についての発信力が弱いために、各サークルの団体間、あるいは住民の方にその活動内容や実態が十分に知られていない実情がある。
- 各種活動の発表の場が少ない。
- スポーツ施設は色々あるが、文化施設は案外と少ない。文化活動の拠点となるような場が必要である。
- 住民参加型のスポーツの仕組みを考える必要がある。



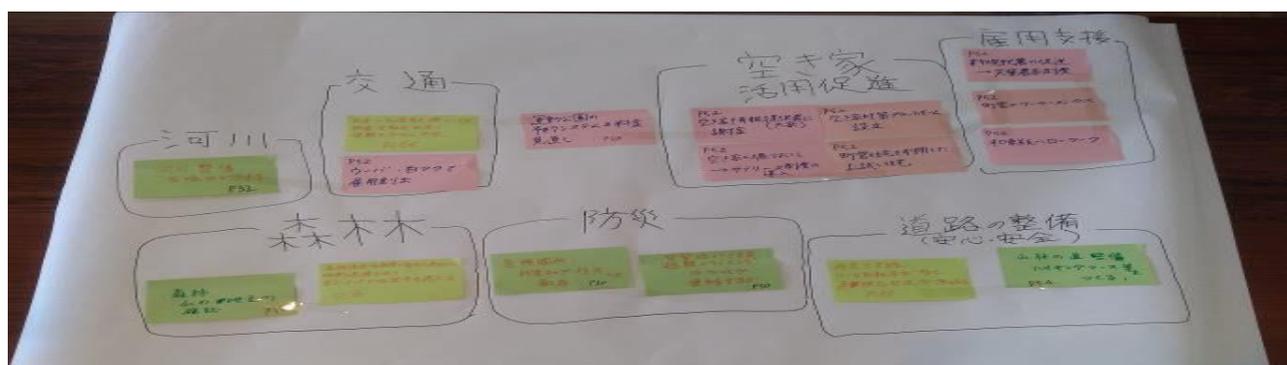
【産業部会】

- 交流の郷という中には、農林業の振興、活力を生み出す商工業の振興、波及効果を高める観光・交流産業の展開、新たな産業の創出等の項目が含まれる。
- この5年間で観光客30万人を目指すという大きな目標を設定しているが達成できるのか。町として30万人を受入れ可能な体制を整備しているのか。計画において、受入れる場を創ることが優先されるのではないか。
- 観光案内所では、お茶の郷だから茶そばが食べたい等の話が出てきている。観光振興のために、商工関係者や茶業の方と一緒に、6次化も含めた対策を考えていく必要がある。
- 空き家はたくさんあるが、空き家バンクへの登録が非常に少ない。そのような仕組みの情報発信が極めて弱いのではないか。
- 農業の面では、高齢者が増え、荒廃農地が出現している事から、これを防ぎお茶も守るためにも、新規就農の受入を考える必要がある。
- 新規就農をしようと思っても費用の問題等があるので、初期投資が少なく、同時に農業もできる仕組みを町も一緒に考えていく必要がある。
- 循環社会を目指すなら、生ごみのたい肥化や、それを活用した野菜や茶園の取組も検討すべき。高齢者の生きがいつくりにも繋がるのではないか。
- 農業は担い手づくりが、最も基本的な課題になる。
- 商工事業者の大半を占める中小企業は事業継続が難しい局面があるため、町による支援が必要である。
- 高齢者の支援の一環として移動販売を行っている。商業と福祉を組み合わせた施策が必要不可欠である。
- (仮称) 犬打トンネルの効果を一部の地域に止まらせず、町全体で受け止められる対策が必要。和束町を稼げる町とするのに大事な視点である。トンネル～ローソンの間で、茶業・商業・観光等が集約した取り組みが必要である。
- 3,700人規模の町だからこそ観光振興を含め、町民全員が参加できるまちづくりができる。次の世代にしっかりと繋げられる計画づくりが重要である。



【建設・環境部会】

- 道路整備の面では、住民から生活道路を車のすぐ横をロード自転車が走行しており、危険性が指摘されている。
- 観光客を増やすために、山林道の整備等が遅れており、ハイキングコースの整備等を、計画の中に明確に位置付けて実施する必要がある。
- 安心・安全の面では、防災マップを各地域で活用して危険個所を把握したり、災害避難時に、誰が誰に声を掛け避難をするのかを話し合う等、避難体制の構築が必要である。
- 森林環境の保全の面では、山の荒廃や危険地域もみられるので、土地の所有者を明確にして、管理体制を整える必要がある。
- 森林保全は、専門知識が無いと危険であり、ボランティアだけでは担うのは困難があるため、森林施業に精通した専門家の関与が必要である。
- 交通では、バスの便数も減少し、利用者も極端に少なくなっている。実態として、保護者が子どもの通学の送迎をする等を行い、負担が大きくなっている。例えば、住民が地域交通の一躍を担う等、もう少し柔軟な交通システムが構築できるように工夫が必要である。
- 空き家があっても空き家バンクへの登録数は少なく、登録されない原因を追求し、空き家のさらなる掘り起こしが必要である。簡単に、安心して貸し借りができる仕組みをつくる必要があり、そのためには、専門家も入れたプラットフォームの構築が必要である。
- 地域で創出された雇用に対して、町営のワーカーズハウスやハローワーク等を設置するなど、事業者が人材確保ができるように、町がもっと主体的に取り組むとともに、新規就農者を受け入れていくために、先輩農家制度等を検討していく必要がある。



【総括】

- 分野は違っても横のつながり、例えば、スポーツや文化などが地域のコミュニティがつながりユニットになるといったようなことが、各部会共通になる。
- 福祉医療部会が出た「実態に基づいた解決策が町の中にあるはず」との意見があった。わかっているようで、町を知らないことが多いのではないか。お互いの情報発信と住民が関心を持つかが大事になってくる。
- アンケートをすると良い意見が返ってくることが多い、それはまちづくりに関心のある人がアンケートに協力しているからであって、関心のない人の意見は反映されていない。アンケート調査も関心を高めないと本当の実態は把握できないことから、住民にはまちづくりに、町自体に関心を持ってもらうことが必要である。
- コロナウイルス対策は、お茶をPRするチャンスだと考える。研究としてはまだ実証されていないが、唾液の中にコロナウイルスが入った時に、カテキンが効果を発揮することが、京大と府立大の共同研究で成果がでている。まだ試験管レベルの話だが、今後、人で実験予定である。ウイルスは鼻の粘膜を通して入ってくるが、口内をキレイに保つことで、自分自身にも、他人へ感染させるリスクが減少する。効果は持続しないが、頻繁に緑茶を飲むことで効果が得られる。
- 和東に住んでいながら和東の茶の魅力に気づいていなかった子どもころから、和東の歴史や文化など魅力を知る事で、誇りに繋がると考える。現在、町史編纂の編集集中で掘り起こしが行われている最中である。
- 日吉森林組合は日本有数の経営をしている団体である。湯船地区あたりは、林業で栄えていた経緯もある。日吉のマニュアルみたいなものがあれば、和東町でも使える可能性があるかもしれない。